

平成 19 年 12 月 6 日

## 東京電力(株)東通原子力発電所環境影響評価における事後調査について

東電環境エンジニアリング(株)  
小野 芳生

### 東京電力(株)東通原子力発電所の概要

- 事業名称：東通原子力発電所 1・2号機新設
- 計画地点：青森県下北郡東通村
- 開発事業者：東京電力(株)
- 計画出力：270万kW(138.5万kW×2基)

### 環境影響評価の経緯

- 環境影響評価方法書 届出：平成 12 年 8 月
- 現況調査実施：平成 13 年度
- 環境影響評価準備書 届出：平成 14 年 8 月
- 環境影響評価書 届出：平成 15 年 7 月  
平成 15 年 8 月確定



定

- ・環境影響評価法(平成 11 年)施行後の本格的な発電所アセスメント
- ・新法の特徴：上位性、典型性、特殊性といった生態系の観点から開発の与える影響を予測・評価

### 現況調査結果の概略

#### 動物調査結果(重要な種)

区分	主な動物
哺乳類	ツキノワグマ、カモシカ、イイズナの3種
鳥類	ミサゴ、オオジシギ、コジュリン等の33種
は虫類	ヒバカリ
両生類	モリアオガエル
昆虫類	カラカネイトトンボ、コバネアオイトトンボ、ハラビロトンボ等の39種

### 重要な種及び重要な群落

区分	調査結果の概要
重要な種	高等植物：ムラサキ、サルメンエビネ、 ソウ等の 35 種 ミズゴケ科植物：オオミズゴケ エゾナミキ
重要な群落	ヒライ - カモノハシ群落、 クロバナロウゲ - ミツガシワ群落 等の 16 群落

#### 昆虫類に関する評価結果

生息地に影響があると考えられることから、ビオトープネットワークの充実や、湿原の水環境の保全に努めて、影響の低減を図る。

#### 植物に関する評価結果

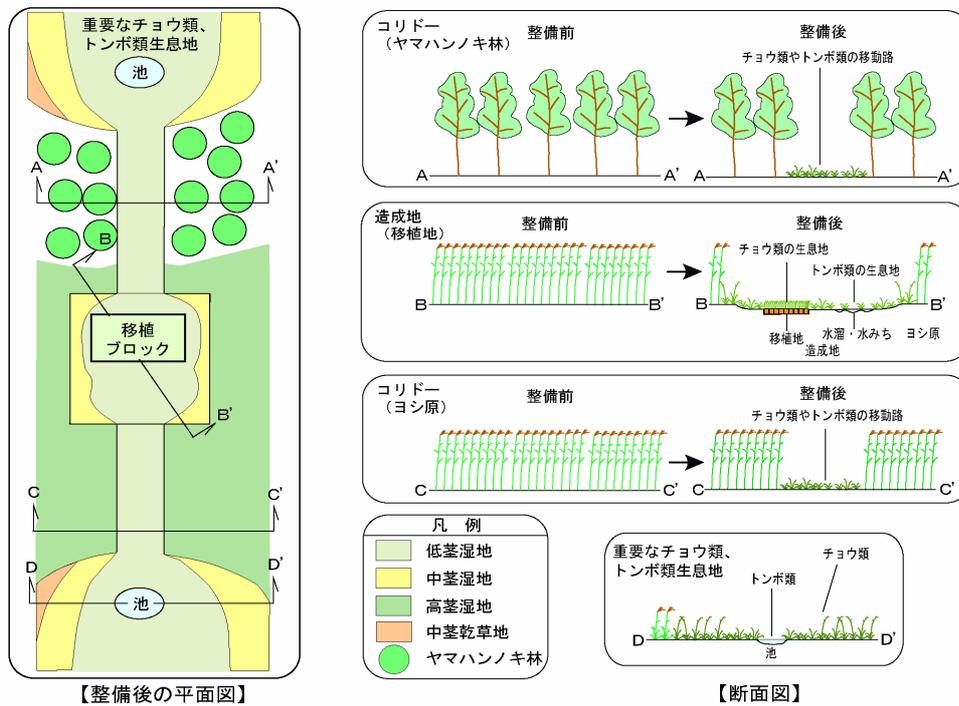
湿原の植物：生育地の一部が改変により消失するため、他の重要な種とともに、その一部を泥炭ごと対象事業実施区域の適切な場所に移植し保全する。 泥炭ブロック移植

林地の植物：生育地の一部が改変により消失するため、対象事業実施区域の適切な場所に移植し保全する。 種別移植

#### 【ビオトープネットワークの整備】

原子力発電所建設に伴う地形改変等により、対象事業実施区域中央部の特に湿原、草原、池等に生息・生育する重要な種群及び湿原生態系が影響を受けるため、残存する重要な種群の生息・生育地を維持する目的で南北に残存する湿原にビオトープネットワークを整備する。

## ビオトープコリドールの整備イメージ



## ビオトープコリドールの整備状況



### 【事後調査の実施】

創出したビオトープネットワークが、十分に機能するかどうかは不確実性の程度が大きいため、事後調査を行い、ビオトープコリドール、泥炭ブロック移植地、池と連続した低・中茎湿地において、対象種を確認することによりビオトープネットワークの効果を確認する。

また、泥炭ブロック移植以外の重要な植物種も、移植後の生育状について不確実性の程度が大きいため、事後調査を行い、生育状況を確認する。

### 東通地点における事後調査

#### 1. 調査項目

(1) ビオトープネットワーク整備後の重要な種群の生息・生育状況

(イ) ビオトープコリドーと泥炭ブロック移植地

調査対象種 昆虫 17種・植物 12種

(ロ) 池と連続した低・中茎湿地

調査対象種 昆虫 14種・底生動物 1種

(2) 泥炭ブロック移植以外の重要な植物種の移植後の生育状況

調査対象種 植物 8種

(その他、移植未実施の重要な種2種)

合計

昆虫類 20種・底生動物 1種・植物20種を調査対象とした

#### 事後調査対象種

昆虫類	モートンイトトンボ、カラカネイトトンボ、ハラビロトンボ、ハッチョウトンボ、ヒガシカワトンボ、ミヤマアカネ、ハスオビアツバ、クロスジギンヤンマ、ショウジョウトンボ、シオヤトンボ、マイコアカネ、ゴマシジミ、ヒョウモンチョウ、ギンイチモンジセセリ、スジグロチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、キマダラモドキ
底生動物 (水生昆虫等)	ババアメンボ、ゲンゴロウ、キタゲンゴロウモドキ、モノアラガイ
植物	ミチノクホタルイ、サギスゲ、オオニガナ、ヒメミズトンボ、ホロマンノコギリソウ、ミズトンボ、トキソウ、クロバナロウゲ、ミズゴケ類、ムジナスゲ、ヤチスゲ、タヌキモ類 ノダイオウ、イヌハギ、エゾサワスゲ、サルメンエビネ、エゾナミキソウ、イトモ、エビネ、タヌキモ類 (ヒメキンポウゲ、ムラサキは移植時に未確認)

#### 平成16年から平成18年の事後調査結果

多くの調査対象となる昆虫類の生息を確認

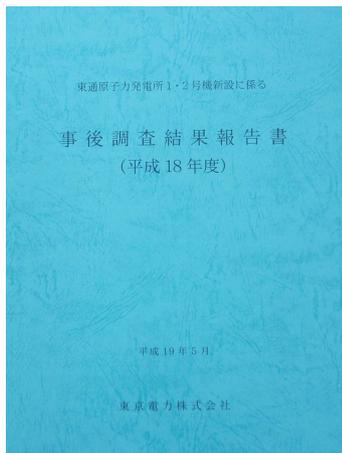
泥炭ブロック移植したほとんどの重要な植物を確認



整備したビオトープネットワークは、これらの重要な種の生息・生育場所として有効に機能している。



整備後まだ経過が短く、安定した状況になっていないと考えられ、引き続き経過を見守る。



TEPCO ホームページで詳しい調査結果が報告されています。

### 事後調査結果（昆虫類）

調 査 地 点		平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
		確認種数	確認種数	確認種数
保全措置による新たに創出・整備した 地点及びコリドー	ブロック移植地 ( 3 地点 )	7 種	10(1)種	13(1)種
	整備池 ( 2 地点 )	8 種	10 種	10(1)種
	コリドールート ( 3 ルート )	12(2)種	13(1)種	14(1)種
既存の地点及びコリドー	トンボの発生地 ( 3 地点 )	11(1)種	16(1)種	16(1)種
	コリドールート ( 1 ルート )	9 種	8 種	7 種

事後調査結果（植物：泥炭ﾌﾞｯｸ移植地）

		平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	移植時に確認した重要な種
移植地 a	全植物生育数	51 種	56 種	57 種	8 種
	確認した重要な種	10 種	8 種	10 種	
	移植時に確認していた種	8 種	8 種	8 種	
	移植時に確認していない種	2 種	0 種	2 種	
移植地 b	全植物生育数	53 種	52 種	51 種	4 種
	確認した重要な種	6 種	6 種	7 種	
	移植時に確認していた種	4 種	4 種	4 種	
	移植時に確認していない種	2 種	2 種	3 種	
移植地 c	全植物生育数	49 種	51 種	54 種	7 種
	確認した重要な種	9 種	8 種	8 種	
	移植時に確認していた種	7 種	6 種	6 種	
	移植時に確認していない種	2 種	2 種	2 種	
全地点 合計	全植物生育数	69 種	71 種	71 種	12 種
	確認した重要な種	14 種	14 種	14 種	
	移植時に確認していた種	12 種	12 種	12 種	
	移植時に確認していない種	2 種	2 種	2 種	